

令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	とくていひえいりかつどうほうじん にほんおんがくしゅうだん 特定非営利活動法人 日本音楽集団	団体ウェブサイトURL http://www.promusica.or.jp/
代表者職・氏名	代表理事 尾崎太一	
制作団体所在地	〒 151-0073 最寄り駅(バス停) 京王線 笹塚駅 東京都渋谷区笹塚3丁目17番1号 滝沢ビルB1F	
電話番号	03-3378-4741	
ふりがな 公演団体名	とくていひえいりかつどうほうじん にほんおんがくしゅうだん 特定非営利活動法人 日本音楽集団	団体ウェブサイトURL http://www.promusica.or.jp/
代表者職・氏名	代表理事 尾崎太一	
公演団体所在地	〒 151-0073 最寄り駅(バス停) 京王線 笹塚駅 東京都渋谷区笹塚3丁目17番1号 滝沢ビルB1F	
制作団体 設立年月	1964年 4月	
制作団体組織	役員 代表:尾崎太一、副代表:米澤浩 運営委員長:元永拓、運営委員:田野村聡・原郷隆、久保田晶子、他3名 事務局:中山美穂子	団体構成員及び加入条件等 正会員:67名、協力会員:51名、賛助会員:法人1、個人16人(以上、計134名、1法人) 加入条件/本団の趣旨に賛同し、プロとしての音楽活動を行う事や協力・支援する事。
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名 米澤 浩
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名 中山 美穂子

<p>制作団体沿革</p>	<p>1964年に、演奏家と作曲家の14名で設立され、同年11月に第1回定期演奏会を開催しました。</p> <p>1999年特定非営利活動法人に認定され、年3回の定期演奏会の他、全国各地の鑑賞団体や文化施設主催のコンサート、小・中・高等学校での鑑賞会、CD、放送、映画、演劇の音楽担当などの演奏活動を行っています。</p> <p>1981年には、ライプツヒ・ゲヴァントハウス・オーケストラ命名200年記念委嘱作品「急の曲」（三木稔作曲）を同オーケストラの音楽監督クルト・マズア氏指揮により初演。海外の音楽祭にも多数参加し、2001年邦楽アンサンブルとして初めて「ブラハの春」に招聘（第25次海外公演）されました。</p> <p>2010年には第30次海外公演としてユーラシア音楽祭を含むロシア、モンゴル公演を実施しました。</p> <p>定期演奏会は、2022年9月までに237回を数えます。</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>私共法人は、昭和39年（1964年）に任意団体として設立し、平成10年（1998年）までに723公演以上の学校鑑賞会の実績を持ちます。（但し、創立から昭和57年までの実績データは不明です。）</p> <p>平成11年（1999年）にNPO法人となって以降は400公演以上の実績を持っています。その中特筆させて頂きたいのは、認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワークと共同して実施している「Meet_The_和楽器」プロジェクトを実施する過程で『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』を確立させ、実施して来たことです。</p> <p>それまでの学校鑑賞会プログラムとは異なる「箏体験プログラム（45分）と鑑賞プログラム（45分）で構成した《Meet_The_和楽器》プログラム」を、令和3年度までに東京都中央区・江東区内の延べ36校で小学校4年生3354名を対象に実施しました。</p> <p>本巡回公演事業でも『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』を含めた『巡回公演プログラム』を実施いたします。</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成26年度／愛知県立豊橋特別支援学校 平成27年度／滋賀県立三雲養護学校・大阪市立平野特別支援学校 平成28年度／福岡県立福岡聴覚特別支援学校・長崎県立盲学校 平成30年度／青森県立八戸聾学校・盲学校</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団 】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	-	
企画名	『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>(1) 『宮崎駿アニメ・メドレー』（秋岸寛久編曲）</p> <p>(2) ～(6) 『日本の楽器たち』（古典作品） ／六段の調、鹿の遠音、春の海、那須の与一、幕間三重・獅子狂い五段</p> <p>(7) 『子どものための組曲』（篠田大介作曲）</p> <p>～休憩（10分）～</p> <p>(8) 『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～／児童生徒代表と共演 （作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫、作詞：佐藤万里）</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	<p>第1部は色々な日本の楽器について司会者（協力俳優）と演奏者との話しでそれぞれの古典作品と現代の合奏曲を紹介し、第2部では、児童生徒代表の皆さんと『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～で共演します。『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～は、教科書に掲載されている原文のままです。7種類の日本の楽器と共演」できる作品で、国語の授業で「ごんぎつね」を学習した中・高学年の児童生徒の中から、学校側で代表の学年を選出して頂き、日本音楽集団の演奏者と共演して頂きます。</p>		
演目選択理由	<p>小学4年生で学習する新美南吉の「ごんぎつね」をメイン・プログラムにおいた公演を鑑賞することで、日本の楽器をより身近に感じてもらうよう意図し、併せて、児童生徒代表と演奏者が一緒に音楽朗読劇を作り上げる《共演体験》を持つこと、本公演での発表を通じて児童生徒代表と演奏者として《達成感を共有》すること、そして児童生徒代表の共演を全校で鑑賞することにより、全校児童生徒全員で《間接的体験》を共有することも意図しています。</p> <p>又、第1部の『日本の楽器たち』では、それぞれの古典作品を紹介することはもちろんのこと、それぞれの演奏家が現在に至る「演奏家としての個人史」にも触れて《キャリア教育的要素》を盛り込むことも意図しています。</p>		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>『ごんぎつね』を国語の時間に学習した4年生以上の児童生徒が代表となり、《ごんの歌》で日本音楽集団と共演し、児童生徒代表の皆さんと日本音楽集団の演奏者が「音楽朗読劇を作り上げる過程」を共有し、「協働の場」を児童生徒代表と演奏者として持つことを意図しています。</p> <p>本公演において、児童生徒代表と演奏者が協働した成果を全校児童生徒に発表し、共に作り上げた「音楽朗読劇」の鑑賞を通じて全校児童生徒の皆さんに《間接的体験》を共有してもらうことも意図しています。</p> <p>尚、児童生徒代表の皆さんとの共演形態は学校側のご要望に可能な限り沿うよう、基本パターンを巡回公演の実施が決まった各校に日本音楽集団から配布する【実施の手引き】で紹介いたします。</p>		
出演者	<p>笛／竹井誠・新保有生・あかる潤・芝有維、 尺八／元永拓・原郷隆・田野村聡、 三味線／柘家七三・山崎千鶴子・養田弘大・長井麻江、 琵琶／久保田晶子・藤高理恵子、 箏（こと）・二十絃箏／熊沢栄利子・桜井智永・三宅礼子・喜羽美帆、 十七絃箏／城ヶ崎美保・丸岡映美・久本桂子・石井香奈、 打楽器／臼杵美智代・多田恵子・盧慶順・山内利一、 他</p> <p style="text-align: right;">7種の楽器7名の日本音楽集団団員</p> <p>司会と朗読／飛山真利子・竹井沙紀・吉瀬 はなこ（助演）</p> <p style="text-align: right;">以上、7名の奏者と司会者1名、計8名を派遣</p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者： 8 名 スタッフ： 1 名 合計： 9 名	運搬	トヨタ ハイエース 積載量： 1.25 t 車 長： 4.84 m 台 数： 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時30分	9時30分～12時15分 (共演のリハーサル含む)	13時30分 ～15時10分	10分	15時20分 ～15時50分	16時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
					2日	
	11月	12月	1月	計	27日	
	19日	6日				

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	最大160名(4クラスまで)
		鑑賞人数目安	50名～300名

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。



【ワークショップ】～会場の設営～
 箏を20面配置するため、最低でも通常の教室の2教室以上の広さが必要なので、体育館が最も望ましいワークショップ会場です。
 写真のように体験用のお箏を配置するスペースとは別に、共演の練習で伴奏する演奏者用の楽器を配置するスペースも必要です。



【ワークショップ】～モニターを使って説明～
 どうやったら良い音でお箏を弾けるのか?モニターを使いながら分かりやすく説明しながらワークショップの楽器体験を進めていきます。
 学校備品のテレビ・電子黒板などをお借りします。



【本公演】～会場の設営～
 体育館フロアでの公演を基本としています。
 体育館は横長に使用し、演奏者がどのように楽器を演奏しているか?や、演奏者の手の動きや表情を少しでも「間近から見られる」ことを目指しています。
 低学年のお友達は、前列に並ぶか中央部に座るか等を各実施校毎にご相談しながら着席して頂きます。



【本公演】～演奏に必要な広さ～
 演奏に必要なスペースは、「間口8m」・「奥行き3m」以上が必要です。
 『演奏者エリア』から3m離れたところから児童生徒さんが着席する『鑑賞エリア』です。

【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	最大160名 / 【楽器体験】1コマ45分でクラス単位で実施、最大4クラス(4コマ)まで可能です。 【共演の練習】クラス合同で1コマ45分。
ワークショップ実施形態及び内容	<p>● ワークショップ実施のタイムテーブル例 /</p> <p>1校時目ー楽器類の搬入と準備 2校時目ー楽器体験（代表の1クラス目） 3校時目ー楽器体験（代表の2クラス目） 4校時目ー楽器体験（代表の3クラス目） 5校時目ー楽器体験（代表の4クラス目） 6校時目ー共演の練習（体験したクラス合同で実施）</p> <p>※注記： 前泊地から実施校が離れている場合は、1校時目から準備を開始することが難しい場合があります。その場合は、2校時目に楽器類の搬入・準備、3校時目に代表の1クラス目の体験を行うため、代表のクラス数は3クラスに減少します。</p> <p>● 楽器体験 / 『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』 私共法人が箏（こと）20面を実施校に持ち込み、箏による『楽器体験』を行います。 『楽器体験』は、各校で児童生徒の代表クラスを選んで頂き（4年生以上で最大4クラスまで）、クラス単位で実施して所要時間は1クラス（1コマ）45分です。 学校に持ち込むのは箏だけでなく、弾き方を紹介するためのモニター用ビデオカメラ類も持ち込み、学校備品の電子黒板・テレビモニター等をお借りして代表児童生徒の皆さんに分かりやすく解説して進行します。 （◆ No.2の「公演に係るビジュアルイメージ」をご参照下さい。）</p> <p>● 共演の練習 / 代表の児童生徒のクラス合同で『ごんぎつね～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～』に登場する3曲の『ごんの歌』で共演するための練習を行います。 本公演で『ごんぎつね』の朗読を担当する協力俳優の指導により、5人の演奏家（尺八・三味線・二十絃箏・十七絃・打楽器の奏者）が伴奏して共演の練習を進行します。 所要時間は45分です。</p>		
ワークショップのねらい	<p>ワークショップにおいて実施する『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』は、単に「箏（こと）に触れてみる」プログラムではなく、クラス全体で協力して「さくら」を最後まで演奏する《協力要素》を盛り込み、《クラス全体で達成感を共有》してもらい《参加型体験学習》として実施しています。</p> <p>先ず、クラスの児童生徒の皆さんに「2人1組のペア」になってもらいます。最大で20ペアができることとなりますが、このペア同士の協力が基本となります。</p> <p>そして、2人1組のペアが2つのグループに分かれ（最大で各10ペアずつの2グループ）、2つのグループで音楽をリレーしながら「さくら」を最後まで演奏することを目指してもらいます。ペア同士の協力はもちろん、クラス全体（2つのグループ）の協力・協働が必要な『箏体験プログラム』です。</p> <p>又、『ごんぎつねでの共演リハーサル』では、《作品を演奏家と一緒に作り上げる経験》を持つことで、《演奏家と協働体験も共有する》ことを意図しています。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>私共NPO法人で実施している『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』は、試行を経て平成24（2012）年に東京都中央区の小学4年生を対象に本格的にプログラムの実施を始動しました。</p> <p>令和3年度までに、本巡回公演事業でのワークショップも含め全国の小学校延べ135校で約11,300名の児童生徒を対象に実施した実績を持ち、実施現場からのフィードバックを基にしたブラッシュアップも行いながら現在に至っています。</p> <p>「体験レッスン」になりがちな楽器体験ではなく、ファシリテーターが体験をサポートしながら『児童生徒それぞれが自分で感じながら《箏》という楽器を体験していく』ことに重きを置いたプログラムとして実施しています。</p>		